

## 平成22年度博物館施設評価シート

施設名	<b>埼玉県立自然の博物館</b>
-----	-------------------

評価基準		
十分	目標値+10%以上	5点
達成	目標値+5%以上	4点
ほぼ達成	目標値±5%未満	3点
やや不十分	目標値-5%以下	2点
不十分	目標値-10%以下	1点

資料の収集・保管	自然の博物館と川の博物館のスケールメリットを生かした資料の収蔵を考慮し、有効利用を進めるために資料の整理を行う。また、IPMIによる資料管理の励行と環境調査を実施し、資料の保全に努める。
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

視点	項目	指標	目標値		評価 (見込)	特記事項
			目標値	達成値		
資料の充実・有効活用	館有資料の拡充状況	1 館有資料の充実	1,470 点		5	過去3年実績の平均値の10%増
			3,269 点			動物2,136点、植物981点、地質149点、環境3点
	館主催事業等での利用状況	2 資料の活用	4,400 点		1	過去3年実績の平均値の10%増
			3,286 点			館内での活用 3,286点(共催展での利用を含む)
	外部からの要請等による利用状況	3 館有資料貸出	8 件		5	過去3年実績の平均値の10%増
15 件				館外貸出件数 15件(108点)		
資料データの活用状況	4 資料特別利用	26 点		1	過去3年実績の平均値の10%増	
		18 点			写真原板利用等(含む写真掲載)6点 資料撮影12点 資料熟覧0点	
	5 データベースの活用状況	22,200 点		5	過去3年実績の平均値の10%増	
		25,030 点			サイエンスネット(GBIF)への提供25,000点、自然の博物館WEB30点	
サービスの水準	常設展示	6 総合的な満足度(「満足」の割合)	75 %		2	全館共通
			71 %			年間アンケート回収件数515件 年間満足回答件数366件 (不満回答29件 6%)
	企画展示	7 総合的な満足度(「満足」の割合)	80 %		1	全館共通
66 %				年間アンケート回収件数479件 年間満足回答件数317件 (不満回答39件 8%)		
生涯学習支援	8 普及事業の総合的な満足度(「満足」の割合)	80 %		5	全館共通	
		92 %			年間アンケート回収件数 417 年間満足回答件数 383 (不満回答6件 1%)	
利用状況	入館者	9 一日あたりの入館者数	246 人		1	過去3年実績の平均値の10%増
			177 人			年間開館日数 317日 年間総入館者数56,094人
	企画展示	10 一日あたりの観覧者数	— 人		—	常設展示の観覧者が自由に観覧できるので設定は困難
			— 人			
	生涯学習支援	11 普及事業への参加率	85 %		5	全館共通
			95 %			年間総募集定員数 1,072人 年間総参加者数 1,018人
	12 レファレンス	737 件		2	過去3年実績の平均値の10%増	
		691 件			来館438件 電話等253件	
広報	13 インターネットでの情報利用	221,000 件		5	過去3年実績の平均値の10%増	
		851,445 件			HP年間更新回数271	
	14 広報	260 件		3	過去3年実績の平均値の10%増	
		251 件			マスコミ等への情報発信数 251件 マスコミ等での掲載件数236件	

学校支援	学校利用受入	15	学校教育活動における利用数	200	校	2	過去3年実績の平均値の10%増
				182	校		利用学校数の内訳を記入 幼保23、小学校68校、中学校34校、特支6校、高校・大学35校、その他16校
	児童生徒利用	16	児童生徒の参加者数(学校週5日制対応事業を含む)	3,540	人	5	過去3年実績の平均値の10%増
5,328				人	利用児童生徒数の内訳を記入 小学校3,059人、中学校1,627人、高校・大学642人		
学校連携	17	学校への ・職員派遣 ・資料貸出 ・連携事業	80	件	1	過去3年実績の平均値の10%増	
			65	件		ゲストとしての職員派遣数 39件 教育普及資料等貸出数 13件 館内での連携事業等の取り組み 13件	
ボランティア	18	ボランティアの活動	337	人	1	過去3年実績の平均値の10%増	
			167	人		ボランティア17名 外部研究員2名	
調査研究	19	研究成果の公開(発表会・印刷物等)	3.8	件	3	過去3年実績の平均値の10%増	
			3.8	件		学芸職員総数17人 年間総発表件数 65件	
その他	20	開放施設の活用度	53	%	1	過去3年実績の平均値の10%増	
			34	%		利用可能日数 277日 利用日実数 95日	
効率的経営	21	博物館の自立度(観覧料および事業等収入)	5,569,000	円	1	当該年度予算計上額	
			4,101,278	円		観覧料3,802,140円 その他事業収入 299,138円	
各館別項目	22	社会教育施設や団体等への支援・連携	42	件	5	過去3年実績の平均値の10%増	
			50	件		出前授業15、支援35	
	23	国・県機関への対応	35	件	2	過去3年実績の平均値の10%増	
			32	件			
	24	マスコミ等民間機関への対応	40	件	5	過去3年実績の平均値の10%増	
			71	件			
総合評価			合計評価点(見込)		達成度(合計評価点÷測定値設定数)見込		
			67点	97%	〔67点÷(23項目×3点)〕×100		

評価	<p>・評価にはバラツキがあるが、全体としては97%と目標値に少し達しない評価となった。</p> <p>・「1. 館有資料の充実」「3. 館蔵資料の貸出」「5. データベースの活用状況」「8. 生涯学習支援」「11. 普及事業への参加率」「13. インターネットでの情報利用」「16. 児童生徒の参加者数」「22. 社会福祉施設や団体等への支援・連携」「24. マスコミ等民間機関への対応」は、目標値の10%以上に達し、十分の評価が得られた。</p> <p>・「2. 資料の活用」「4. 資料の特別利用」「7. 企画展示 総合的な満足度」「9. 入館者数」「17. 学校への対応」「18. ボランティアの活動」「20. 開放施設の活用度」「21. 博物館の自立度」が不十分の評価であった。</p> <p>・不十分の評価の中で、注意しておきべき項目は「7. 企画展示 総合的な満足度」「9. 入館者数」である。</p> <p>「7. 企画展示 総合的な満足度」では、企画展示室が独立していないため、常設展と企画展の区別が難しい面があり、これが影響している可能性がある。「6. 常設展示 総合的な満足度」も評価が2であり課題であるが、両項目とも「不満」の回答はそれぞれ6%と8%であって、否定的な回答は少ない。</p> <p>「9. 入館者数」の減少には、学校のカリキュラムの改訂(総合学習の時間の削減など)による影響も一因と考えられる。また、当地域の訪問者の減少も一因と考えられる。これは「21. 博物館の自立度」と関連している。</p>
課題	<p>・展示の満足度が十分でない点。</p> <p>・入館者数の維持・確保。</p>
対応の方向	<p>・展示の満足度:前述したように展示に対する不満は数%と少ない。現状では、多くの展示が固定であったり、巨大ジオラマ展示のため展示物の変更などは困難である。展示の理解を深めるため、平成22年度に新たに作成した展示解説書の活用を図りたい。また、当館は平成23年度途中から大規模改修による閉館が予定されている。この期間中に、展示の工夫・改善方法を検討し満足感を高められる方策を実施したい。</p> <p>・入館者数:入館者の維持・確保のためには、自然の博物館の認知度を高める必要がある。これまでも、マスメディアや種々の媒体、地域社会や学校への積極的な広報を行ってきた。平成21年度からは、認知度をさらに高めるため地元学校の生徒に定期的にチラシ配布を行っている。さらに、平成22年度は、さいたま市の小学校4年生全員へのイベントカレンダー等の配布も行った。これらの活動は今後も継続し、広報を進めていく。平成23年度に予定されている休館中には、学校訪問等による広報を行う計画である。また、これまで実施のなかった市町の博物館などと共催展などの事業を実施し、自然の博物館の認知度を高めると共に、共催機関を通じた広報により博物館の紹介を進めていく。</p>

### 基礎データ

職員数(学芸員数)	20人(9人)	総予算額(人件費を除く)	9,240千円	職員1人あたりの県民人口	35.9万人
収蔵資料点数	144,800点	事業経費(上記の内数)	3,272千円	利用者1人あたりのコスト(平成21年度)	158円
平成21年度収蔵資料点数	1,242点	特定財源予算額(うち観覧料収入)	5,569千円(5,508千円)	県民人口に対する利用者の割合(平成21年度)	0.89%

(注)平成22年4月1日現在の埼玉県推計人口は 7,179,020 人である。

## 博物館協議会の意見とその対応

### 全館共通の意見

指摘事項	指摘意見	意見への対応
評価項目全体に係る事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価の総括表を見ると、評価1の項目が多い割には総合評価では100%近い結果が出るなど、現行の評価システムは実態を正確に反映していないと思われる。</li><li>・評価シートの最後の部分に基礎データの項目がある。利用者一人当たりのコストなど、納税者の立場からすると関心の高い数値である。こういったデータも評価システムの中に組み込む出来ではないか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・23年度の新しいシステムでは抜本的に見直しを図っている。</li><li>・23年度の新評価システムの中で、総合評価の中でそういったデータも反映できる方法を取り入れるべく検討したい。</li></ul>